

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 23 年 12 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図 1-①～③、図 2）

昭和 4 年火口の噴気の高さは火口縁上 20m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・地震及び微動の発生状況（図 1-④～⑥、図 3）

今期間、山頂部の地震計で観測される微小な地震がやや多く発生しましたが、山麓で観測される地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源は山頂火口原の浅い所に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 4～5）

GPS 連続観測では、特段の変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、北海道、森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。

次回の火山活動解説資料（平成 24 年 1 月分）は平成 24 年 2 月 8 日に発表する予定です。

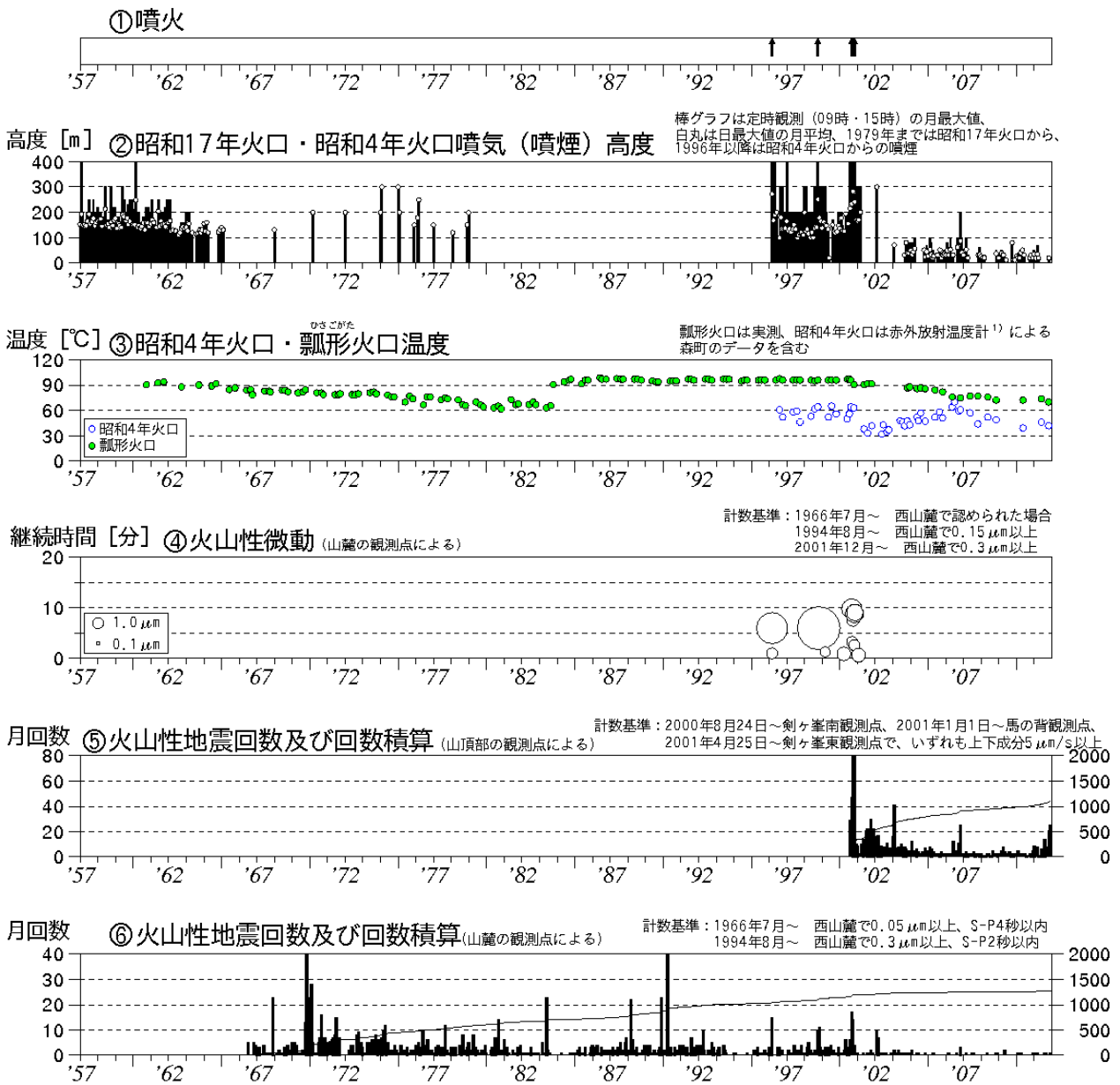


図1※ 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図 (1957年1月～2011年12月)

1) 赤外放射温度計は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図2 北海道駒ヶ岳 山頂部の状況（12月9日、鹿部公園南東遠望カメラによる）

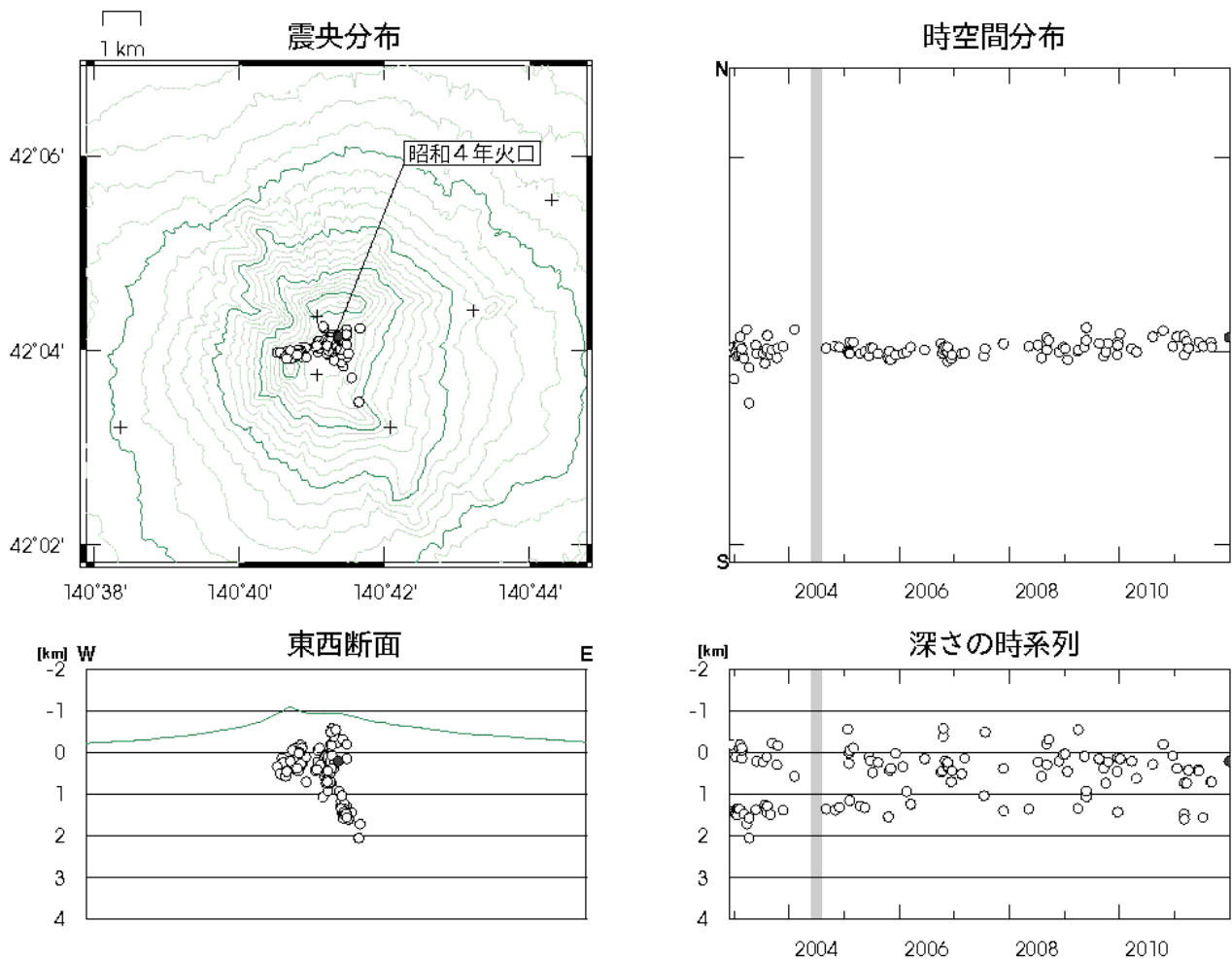


図3※ 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2002年12月～2011年12月）

灰色の期間は一部観測点欠測のため震源の決定数減少や精度低下が見られます

○印：2002年12月から2011年11月の震源

●印：2011年12月の震源

+印：地震観測点

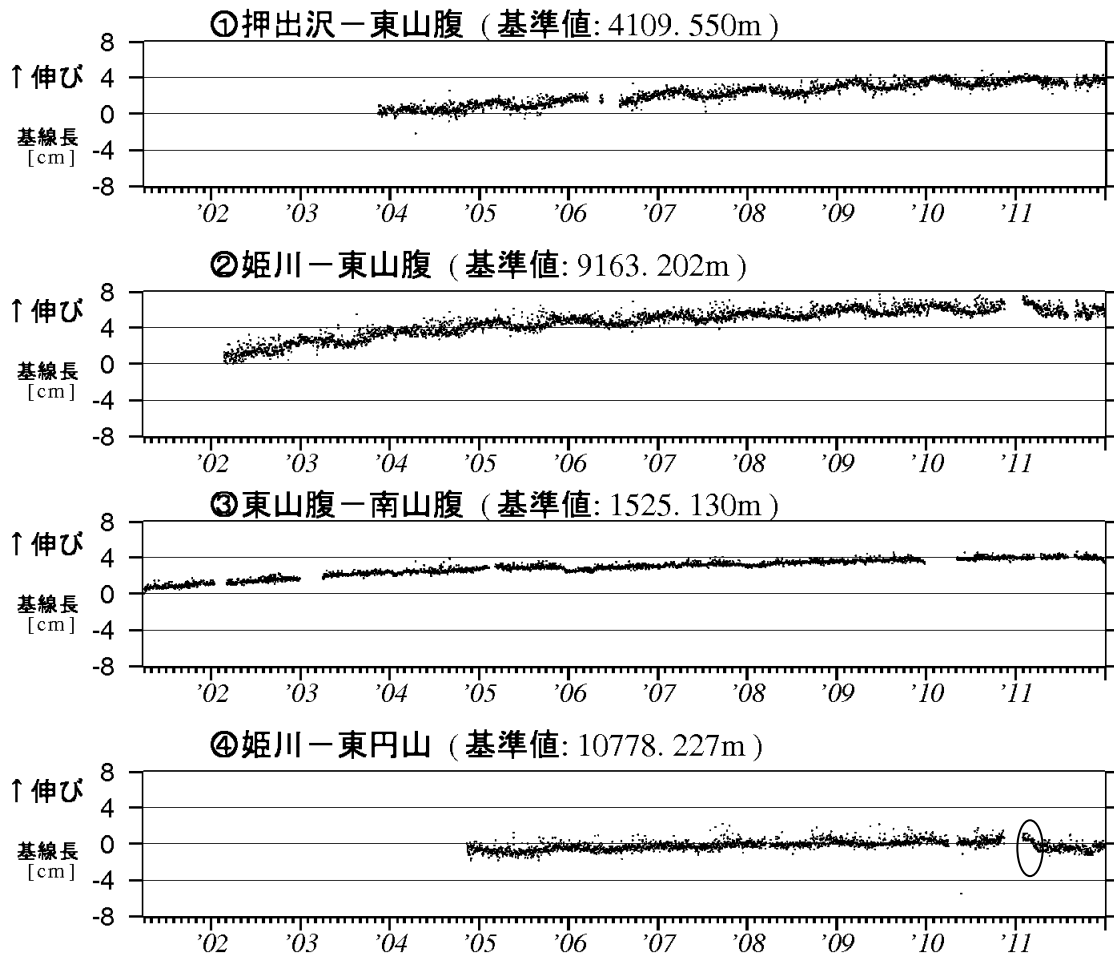


図4 北海道駒ヶ岳 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 4 月～2011 年 12 月)
 ・グラフの空白部分は欠測 GPS 基線①～④は図5 ①～④に対応
 ・楕円内の変動は、2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響による。

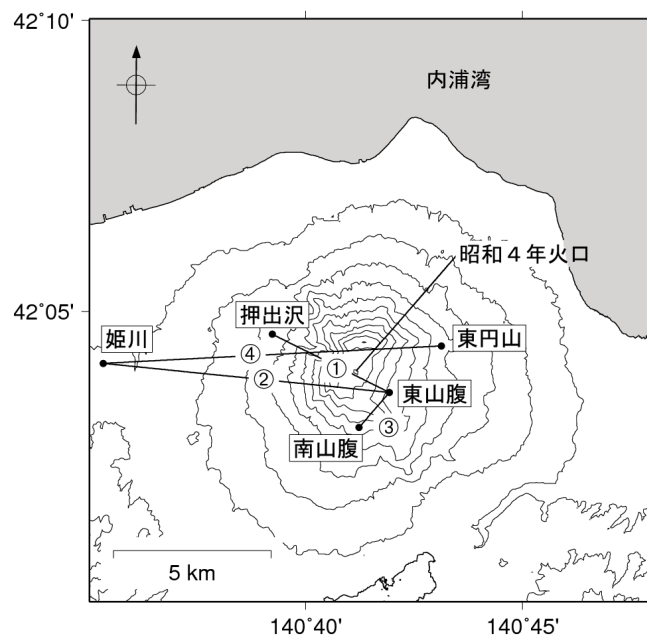


図5 北海道駒ヶ岳 GPS 連続観測点配置図

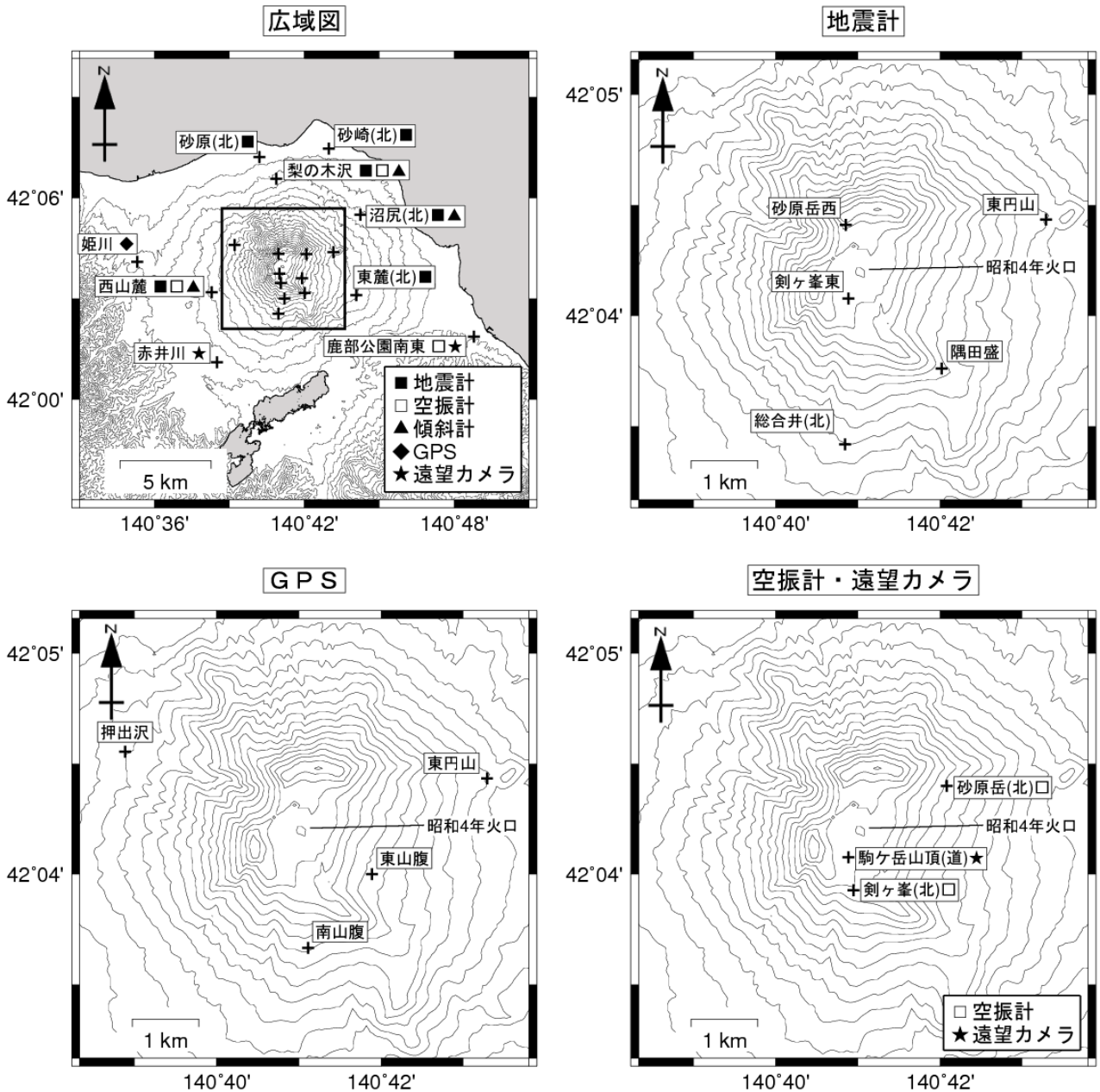


図6 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

+は観測点の位置を示す
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
 (北)：北海道大学
 (道)：北海道